東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年10月11日】第139号

Nodai Toka

伊勢原農場で

10月3日(月)，2年2組は，東京農業大学農学部 伊勢原農場にバスで出かけました。子どもたちは果樹や野菜について，副場長 藤澤弘幸教授と鎌田淳教授のご指導をいただき，また職員や研修生のご助力もいただき実習に取り組みました。

最初は果樹園です。リンゴ，ナシ，バナナ，クルミ，ブルーベリー，カキ，かんきつ類，モモ，ブドウなど様々な果樹が植えられている中，6人のグループごとに青いフルーツ，黄色いフルーツ，赤いフルーツを探して収穫してくるように指示を受けます。子どもたちは果樹園を探しまわって，ブルーベリー，リンゴ，ナシ，ミカンなどを収穫してきました。続いては試食です。先生方にそれを切っていただき，新鮮な味を楽しみました。続けて，サトイモ畑に行きました。サトイモの葉っぱは，トトロの映画にも出てきたということで，子どもたちの心をぐっとつかみます。かぶれないように軍手をして，サトイモを収穫させてもらいました。子芋がたくさんついていることも，驚きだったようです。なお，このサトイモは農場から子どもたち，そしてご家庭へのお土産として頂戴いたしました。

お弁当の昼食後は，タブレットを持って農場の撮影です。友だちや家族に伝えたいことを考えて撮影します。これもグループごとの行動ですが，まだグループ行動ができない子どももいます。6人で動いているはずなのに，あちらに3人，こちらに3人と別れ別れになってしまうグループもあり，これからの成長に期待ですね。

イラガの幼虫がいたり，なんとヘビもいたりと，びっくりすることもありましたが，無事に撮影もでき，タブレットに思い出をしっかりと保存もできたようでした。次は2年1組が訪問させていただき，農場の皆様にはまた1日，お世話になります。

オーストラリア短期留学説明会

10月5日(水)16時30分から，来年の春に現4年生を対象に計画しているオーストラリア短期留学説明会をオンラインで開催しました。4年生の保護者だけでなく，低学年の保護者の多数あった様子で，約160組が視聴されました。8月に校長と学務部主任が，東京農業大学初等中等部統括校長，第一高等学校・中等部校長，第二高等学校校長，第三高等学校・附属中学校校長とともに，小中高一貫校あるいは中高一貫校，合計8校を視察してきました。そこで説明会では，その折に訪問した小学校3校の画像を含め，短期留学の目的，オーストラリアを選んだ理由，また，信頼できるパートナーであるクイーンズランド州教育庁との連携について説明しました。今回はさらに，日程，予定される費用，また，保護者対象のツアーなどの紹介もありました。

オーストラリアでは，一般にマスクの着用は本人の判断であり，8月に訪問したどの学校でもマスクを着用している教職員や児童・生徒はいませんでした。一方，通常の入国条件とは異なり，短期留学のように公立学校の校内に入る場合は，2回のワクチン接種が求められています。希望者のみが対象ですが，本校はじめての短期留学が安全で安心に行われるよう，綿密な準備や情報共有を

進めてまいります。なお，10月5日現在，オーストラリアにおける2回接種率は95.8%，5歳から15歳までについても2回接種率は53.3%となっています。

オーストラリア政府

https://www.health.gov.au/initiatives-and-programs/covid-19-vaccines/numbers-statistics

厚木キャンパスで

10月6日(木)は生憎の雨模様。しかし1年2組の子どもたちは，東京農業大学農学部のある厚木キャンパスにバスで元気に出かけました。教室を一つ控室としてお借りし，荷物を置いてから，2グループに分かれます。

一つ目のグループは農学部デザイン農学科 土田あさみ教授をはじめとする先生方にご指導を，そして，学生・院生さんたちにもお手伝いをいただき，生き物連携センターでの実習です。生き物連携センターには馬場や馬房があり，ポニーや馬の一日の生活や馬房の中の様子，用具について詳しくお話をしていただきました。いったいどのくらいの餌を一日に食べるのか，また，馬房のおがくずはどんな感じなのか，実物を見せていただいたり，さわらせてもらったりすると，疑問がむくむくとわいてくる子どもたちです。先生方にはたくさんの質問にも，丁寧に答えていただいたのは，有難いことでした。また，ポニーの気持ちなどもわかりやすく説明していただき，さらにモルモットの気持ちを考えて触ることなども学び，動物園などでの単なる動物とのふれあいとは違う深い学びができたようです。

もう一つのグループは，農学部生物資源開発学科・植物園の杉山立志准教授に秋の植物の観察をご指導いただきました。起伏にも富んだ広いキャンパスです。様々な草花や木々があります。子どもたちの大好きなどんぐりやクリを採集したりするのですが，落ちているクリにもイガの開いているものや閉じているものがあり，また虫の穴があるものもあるのです。じっくり見なくてはなりません。さらに，雨を最もはじく葉を探してごらん，という杉山先生のお声がけをいただき，子どもたちは目を輝かせて植物を見回していました。そして，子どもたちが一人ひとつずつ選んだ温州ミカンを先生にはさみで切っていただき，お土産に持ち帰りました。次々と話しかける子どもたちにやさしく答えてくださった先生にも感謝です。

午後は，グループを入れ替え，子どもたちは充実した厚木キャンパス実習を経験することができました。厚木キャンパスでは，農学部の学生さんたちが，子どもたちに声をかけてくれたり，子どもたちが汚れていない栗を拾えるように手伝ってくれたりしました。厚木キャンパスでの学びや，先生，学生さんたちとの交流を胸に，将来，ここで勉強したいと思う子どもがいるかもしれませんね。

東京農業大学 生き物連携センター

https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/farm/bio_thera/

東京農業大学 農学部 植物園

https://www.nodai.ac.jp/academics/agri/garden/

暑さも寒さも乗り越えて

９月 30 日(金)の稲花タイムでは，東京農業大学造園科学科の金澤弓子准教授にご指導いただき１年生が種まきをしました。ナノハナは播種後間もなく発芽し，担任の先生方も安堵したようです。プランターで栽培するナノハナ，寒咲きですが，来春の１年生を迎えるころまで花を楽しめる予定です。

一方，本校の「農大稲花小の畑」で栽培中のコマツナは，３年生が間引きを予定していました。しかし，畑の先生からは，最近の低温の影響で，まだ間引きはできないというお知らせをいただきました。間引きはしばらく延期です。生き物は気候の変化に敏感です。そのため，農場や畑での体験学習では，計画変更を強いられたり，あるいは実施日によって，違った展開になったりすることもあります。

本校では，同じ学年であれば１組と２組が同じ学びができるように，教員もよく連絡を取り合って指導をしています。教室の授業では，それが概ね可能です。しかし，自然を相手にする場合は，そうはいかないこともあるのです。子どもたちはそんなときよく，「ずるーい」とか「損した～」と言います。もちろん，その気持ちがわからないわけではありませんが，むしろ子どもたちには，予定通りにいかないことや自分の思い通りにならないことがあることを知り，その中で一番いい方法を考えていこうという姿勢も学んでほしいと思っています。

東京農業大学稲花小学校
校 長　夏 秋　啓 子